

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和4年12月1日

事業所名 AIAI PLUS 麹町

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	1	法令上の指導訓練室40平方メートルよりも広いスペースを確保し、複数の個室環境も用意している。	
	2	職員の配置数は適切である	3	3	法令上の基準人員2名よりも多くの職員を配置しているが、1対1を基本とする手厚い支援をしている。	それに対して、事務等の他の業務に時間を割くことが難しいと感じるときがある。職員の新規雇用を現在進めている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	3	3	個室が複数ある。運動の部屋・学習の部屋といったように、用途に分けて使うことも可能で、プログラムの入替もできる。	・段差がエレベーター付近に1カ所だけあり、マットを敷けないか検討している。 ・「登所してから、荷物を置いて、トイレに向かう」等の動線がわかりづらい構造になっているので、手順を視覚支援で見せる等工夫している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	3	3	掃除は毎日行っている。	設備面では照明による影ができやすく、学習時に影ができないようにすることが難しい。本社の設備担当者と相談をする。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	0	6		都度の提供の準備だけで終わってしまった結果、振り返りや情報共有ができないことがある。もっとやらなければならない。手厚い支援に対して人手不足が背景にあるので、職員の増員で解決したい。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0	初年度につき、今回初めての実施となる。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	0	初年度につき、今回初めての実施となる。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	6		第三者評価機関については現在、設置していない。本社担当部署の指示を仰ぐ。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	3	動画による研修受講体制や、児童発達支援管理責任者基礎研修の受講等の外部研修への機会はある。	手厚い支援を行うことを重視しているため、提供時間の準備等に注力した結果、研修時間を確保することが難しい。個々の職員が管理を行っており、実践の習得に関しては、専門家による研修を多く組むことが必要である。会社として、作業療法士による体制を整備中である。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
適切な支援の提供	10		2	2	<p>アセスメントに関しては、保護者からの聞き取りのほか、適応行動尺度の一部項目、健康に関する記載、感覚と動作に関するもの等の複数を行っている。</p>	<p>得たアセスメントをどう活用していくか、どう支援の実践に結びつけていくかについては課題がある。より教材・実践に結び付けやすい形に変えることを検討している。</p>
	11		2	3	<p>LEDEXの「感覚動作アセスメント」、また「VINELAND- II 適応行動尺度 日本語版」の一部項目を全ての利用者に提出してもらっている。</p>	<p>しかし、それらをどう活用していくか、実践にどう結びつけていくかについては課題がある。より教材・実践に結び付けやすい形に変えることを検討している。</p>
	12		4	2	<p>個別支援計画には6つの設定項目があり、さらに必要に応じて、1～3程度の小項目を設定している。これは他事業所よりも非常に多い項目数となっている。</p>	<p>一方で「地域支援」等の項目についてはテンプレートになりがちであり、地域との交流等をどう促進していくかは課題である。地域住民との交流を望む声が多いのかも含めて検討したい。</p>
	13		5	1	<p>支援時に使うバインダーに、一人ひとりの個別支援計画のコピーを挟んでいる。それを見て、各指導員が利用児童にふさわしい支援を行えるよう努力している。</p>	<p>カンファレンスをより多く実施し、支援に関する内容や情報のすり合わせを行うこと、支援計画と実践を結びつける力量が伴わない指導員もおり、実践につなげられる研修を行うこと、の2点が課題。このため採用等によって人手不足の解消と研修体制の整備を進めている。</p>
	14		3	3	<p>活動においては、個々の指導員において工夫ができる反面、ひとつの活動をみんなで立案するような仕組みではないのが現状である。</p>	<p>カンファレンスに基づいて検討の機会を用意できるようにしたい。</p>
	15		5	1	<p>マニュアルありきではなく、利用児童に応じて内容を変更できるよう、個々の指導員に工夫の裁量がある。体格や能力、発達課題に合わせて、運動内容を変更する等の工夫をしている。</p>	<p>マニュアルは土台にすぎないと考えている。マニュアルに子どもを合わせるのではなく、まずは子どもありきで考えている。新人職員の場合は、マニュアル通りにやった結果、手ごたえを得られず苦しむ時期もあるので、メンター制等を講じて、フォローが必要だと考える。</p>

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	2	3	利用児童の特徴や、児童同士の相性によって、集団でひとつの活動を取り組むことが難しいと感じることがある。その場合、必ず職員を1対1で配置し、その子に応じた活動を行ってはいる。	集団活動になじめない状態をどう改善するか、職員間でより具体的に検討していく必要がある。カンファレンスの機会を増やしたい。
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3	3		簡単な打ち合わせはするが、支援の内容まで掘り下げて話す時間を持つためには人手不足を解消する必要がある。
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	1	5		必ずというところまではいかない。時間を見つけて振り返りはするようにしているが、必ずできるわけではないので、共有する時間を作るようにしたい（19も参照）。
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	1	5		1対1を基本とする手厚い支援をしている。それに対して、記録・事務等の他の業務に時間を割くことが難しいと感じることがある。支援の質を変えずに事務や打ち合わせの時間を作るためには、現在の職員数では少ないと感じる。毎日4～5人以上の職員が出勤できるよう、積極的な新規雇用を進めたい。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	2	4	法令上の基準である6か月に一度で行っている。	児童が目標を達成したかを毎月のようにチェックできる体制が理想。現状は管理者兼児童発達支援管理責任者1名で60人程度の児童をみているため、そこまで至っていない。そこで児童発達支援管理責任者基礎研修の修了者を増やすことを目標としており、本年は2名修了した。
21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3	1	新型コロナウイルスの影響もあり、電話によるやり取りが主だったが、児童発達支援管理責任者が100%対応している。	児童発達支援管理責任者と指導員の2名で双方から意見をのべるのが望ましいため、外部に人員が出ても法令上 差支えない限りはそうしていきたい。
22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	0	特に、千代田区児童家庭支援センターと連携を密にしている。	
23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0	0	医療的ケアが必要な児童は現在いない。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0	0	医療的ケアが必要な児童は現在いない。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	2	3	保育所等訪問支援を行っている児童を中心に、連携目的で毎週のように各保育園や学校とやり取りをしている。進学時には、要請に応じて就学支援シートの療育事業所欄に記載を行っている。	しかし、「療育を卒業する」というところまでは、先方との相互理解は図れていないのが現状。移行が進み、保育所等訪問支援の支給量が5から2に減ったケースはある。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	2	3	項目25を参照。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	2	利用児童の状態について、必要に応じて助言に乗ってもらっている。	研修の受講については機会があれば検討したい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	3	1	交流イベントのようなものはないが、障害の有無は関係なく、いろいろな児童が毎日通っている。	要望があれば検討する。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0	4	いろいろな機関・関係者の方に、視察に来ていただくことは何度かあった。	そのような場が持たれれば出席をしたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	0	利用の度に保護者と話す時間が設けられている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	0	4		保護者への支援として、事業所内相談支援加算Ⅱ(グループワーク)に該当するものを検討はしている(「フォーラム」という)。しかし、現在実施できるほどの人手の余裕がないので、職員増員を進めている。
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	1	契約時に必ず管理者から行われる。	管理者以外の指導員は、保護者への十分な説明ができないこともあるため研修等を行う。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	3	1	説明の上で、同意を得て自筆署名をもらっている。計画書の作成までは児童発達支援管理責任者が行うが、児発管の不在時等に同意に関する案内を他の指導員が行うことはある。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	2	利用の度に相談に乗っている。内容によっては別途時間を設け、児童発達支援管理責任者が対応している。	一方で、新人の指導員では的確な助言が難しいことがあり、スキルアップが課題になっている。研修等により研鑽を積まなければならない。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	4	学校のPTAに当たるようなものはないが、グループワーク等の開催を企図したい。(項目31も参照)	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	3	1	項目34参照。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	1	月に一回、AIAI PLUS通信を発行している。コミュニケーションツールも、電話のほかLINE等複数活用している。	活動の状況等をブログで発信しているが、今秋以降に利用者が増えたことにより更新のペースが遅くなっている。現在、職員の増員を進めている。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6	0	注意している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	0	視覚支援等、発達に關しての配慮はするよう心がけている。	一方で、手話や点字等を熟知している職員はいない。研修が受けられるよう余裕を持ちたい。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	3	関係者の視察等は受け入れることもあるが、地域住民を対象とした企画はない。	オフィス街に立地しており、想定できていない部分があるが、要望があれば検討したい。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	2	3	マニュアルは整備されている。	実践に対してチェック体制を構築せねばならない。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	2	3		半年前に実施してから入社した職員が半数以上になり、現在の職員体制で今後実施する予定。
43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4	1	バインダーに挟まれている個別支援計画に記載されているほか、提供記録の保護者通信欄に、体調面での記述を毎回書いてもらうようにしている。	しかし、発作が起きた時に具体的にどう対応するか等の実践に結びつけられるような研修が必要である。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	2	事業所内は食べ物の持ち込みは禁止となっている（水筒を除く）。ただし個別支援計画に食物アレルギー等について記載されており、全職員が目を通すことになっている。	個別支援計画の読み込みを徹底する。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	2		ヒヤリハットの記録を提出する職員に偏りが見られる。全職員が出すようにしなければならない。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	2	3	虐待に関するチェックリストを全職員が定期的に実施している。	より充実した研修の整備を進めたい。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5	1	個別支援計画に「保護者への同意書を作成した上で身体拘束を行う」旨が記載されており、同意書がない場合は身体拘束はしないことになっている。	全職員に再周知したい。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。